林修先生と学ぶ「国消国産」講座 Lesson 8

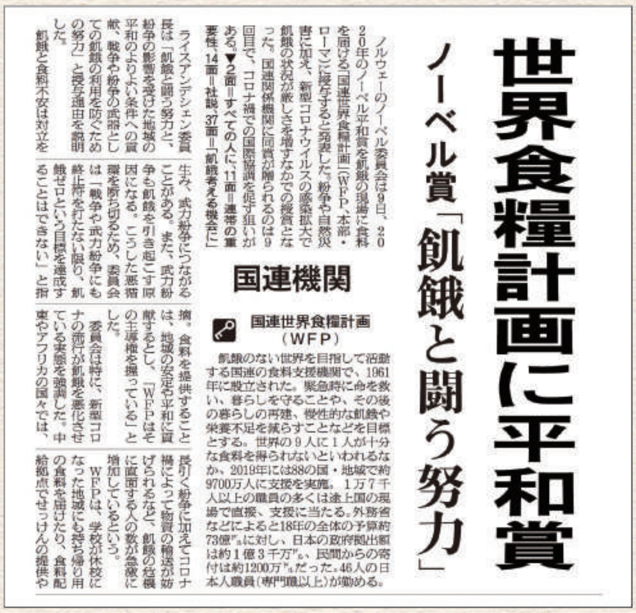
命を育むために最も大事な「食」

SDGsの観点でも、自分事として捉えていきたい

JAグループサポーター
林修

なぜ今？国消国産 世界の平和にも大切な「食」の安定

世界の紛争地域や自然災害の被災地で食料支援を行う「WFP」という国連機関が、2020年のノーベル平和賞を受賞しました。あらためて、**食料の安定供給が、その国の安定や世界の平和にとっていかに大事であるか**が示されました。受賞を報じるこちらの新聞記事にもあるように、世界の9人に1人が十分な食料を得られないといわれています。私たちは飢餓の実態を他人事のように捉えがちですが、自然災害や人口増加などによって、世界における食料の安定供給のリスクは、確実に高まっています。



世界食糧計画に平和賞

ノーベル賞「飢餓と闘う努力」

国連機関

ノルウェーのノーベル委員会は9日、2020年のノーベル平和賞を飢餓の現場に食料を届ける「国連世界食糧計画」（WFP、本部・ローマ）に授与すると発表した。紛争や自然災害に加え、新型コロナウイルスの感染拡大で飢餓の状況が厳しさを増すなかでの授賞となった。国連関係機関に同賞が贈られるのは9回目で、コロナ禍での国際協調を促す狙いがある。▼2面＝すべての人に、11面＝連帯の重要性、14面＝社説、37面＝「飢餓考える機会に」

ライスアンデシェン委員長は「飢餓と闘う努力と、紛争の影響を受けた地域の平和のよりよい条件への貢献、戦争や紛争の武器としての飢餓の利用を防ぐための努力」と授与理由を説明した。

飢餓と食料不安は対立を生み、武力紛争につながることがある。また、武力紛争も飢餓を引き起こす原因になる。こうした悪循環を断ち切るため、委員会は「戦争や武力紛争にも終止符を打たない限り、飢餓ゼロという目標を達成することはできない」と指摘。食料を提供することは、地域の安定や平和に貢献するとし、「WFPはその主導権を握っている」とした。

委員会は特に、新型コロナの流行が飢餓を悪化させている実態を強調した。中東やアフリカの国々では、長引く紛争に加えてコロナ禍によって物資の輸送が妨げられるなど、飢餓の危機に直面する人の数が急激に増加しているという。

WFPは、学校が休校になった地域にも持ち帰り用の食料を届けたり、食料配給拠点でせっけんの提供や

国連世界食糧計画（WFP）

飢餓のない世界を目指して活動する国連の食料支援機関で、1961年に設立された。緊急時に命を救い、暮らしを守ることや、その後の暮らしの再建、慢性的な飢餓や栄養不足を減らすことなどを目標とする。世界の9人に1人が十分な食料を得られないといわれるなか、2019年には88の国・地域で約9700万人に支援を実施。1万7千人以上の職員の多くは途上国の現場で直接、支援に当たる。外務省などによると18年の全体の予算約73億㌦に対し、日本の政府拠出額は約1億3千万㌦、民間からの寄付は約1200万㌦だった。46人の日本人職員（専門職以上）が勤める。

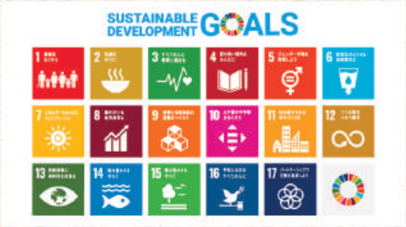
出典：朝日新聞（2020年10月10日付）　朝日新聞社に無断で転載することを禁じます（承諾番号21-0896）

食料を輸入することについて環境面からも考える意識

例えば、同じ100円のレモンでも、米国産と国産では何が違うでしょうか？もちろん、味や品質も違いますが、米国産は1万キロ以上を大型船舶で、国産は数百キロをトラックで運んでおり、輸送にかかるエネルギーや環境負荷が大きく異なります。**食料を輸入するとはどういうことか、食料の安定という面だけではなく、環境面からも考える必要**があります。

だから今！国消国産 SDGsの達成にもつながる「国消国産」

「国」民が必要とし「消」費する食料は、できるだけその「国」で生「産」していくという「国消国産」をすすめることは、食料を輸入に依存しないということにつながり、ひいては、食料の安全保障と持続可能な農業の促進を目標とするSDGsのゴール2「飢餓をゼロに」や、ゴール12「つくる責任　つかう責任」、ゴール13「気候変動に具体的な対策を」にも通じるものです。



ここがポイント！

- 食料の安定は、世界の平和につながっていく
- 食料の輸入について、食料の安定という面だけでなく環境面も意識が必要
- 「国消国産」で、SDGsの達成にも貢献

国消国産
こくしょうこくさん

耕そう、大地と地域のみらい。 JAグループ